

さいたま市長定例記者会見

令和元年5月16日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の産経新聞さん、進行をよろしく願いいたします。

○ 産経新聞 5月の幹事社を務めます産経新聞と申します。よろしく申し上げます。  
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
5月8日、滋賀県大津市におきまして大変痛ましい交通事故が起き、幼い、また尊い命が奪われました。亡くなられたお子様のご冥福をお祈りいたしますとともに、遺族の皆様に対し、心からお悔やみを申し上げます。

報道によりますと、今回の事故につきましては、安全確認を怠った車両が接触事故を起こし、重大な二次被害につながったものでございます。交通ルールや交通マナー違反は、命にかかわる取り返しのつかない事故に直結いたします。

今月11日から20日まで、春の全国交通安全運動が行われておりますが、本市では「児童生徒の交通事故防止」を運動重点に掲げ、10区で啓発活動を実施しております。多くのドライバーが交通ルールを遵守し、正しい運転マナーを実践していただけるように、交通事故防止の徹底を図ってまいります。

### 市長発表：議題1「樹林型合葬式墓地が完成します」

それでは、本日の議題に移らせていただきます。本日の議題「樹林型合葬式墓地が完成します」についてご説明を申し上げます。

まず、さいたま市の墓地の現状でございますが、まず市営墓地については全部で5箇所ございます。合計で約2万4,000区画を管理運営しております。平成24年度をもって市営墓地の新規募集は終了し、それ以降は返還された墓地の再募集のみを行っているところであります。

市営墓地に求められる役割としては、「永続的な管理運営」や多くの市民

が利用できる「公平性の担保」に加えまして、「市民ニーズの変化に対応する先導的な役割」が求められるようになっております。

こうしたさいたま市の墓地行政が抱えている現状を踏まえまして、平成26年度に「墓地に関する市民意識調査」を実施するとともに、「さいたま市墓地のあり方研究会」を設置して、課題を整理し、平成27年度に「さいたま市墓地行政の基本方針」を策定しました。

本市は、2015年から2034年まで約1万7,000の墓地不足が見込まれておりますが、新たな市営墓地の整備は、用地の確保、また多額な費用を要するため、困難であると考えております。

墓地に関する市民意識調査におきまして、求める墓地形態は、個々に区画されたお墓のニーズが高くございましたが、このほか、「合葬式墓地」、「安価」、あるいは「承継がいなくても安心して利用できる墓地」、「自然に還りたい」というニーズの多様化も見られたところでございます。

市営墓地におきましては、管理料の長期滞納や無縁化が疑われる墓地が年々増加傾向にございます。従来の役割等に加えまして、「人生の終末期における福祉的なサービスの役割」や、「誰もが親しめる緑豊かで公共空間としての利用」が新たに求められています。

これらの課題に対応していくために、平成28年度に「さいたま市思い出の里市営霊園再整備基本計画」を策定しました。そして、平成30年度に「樹林型合葬式墓地」の工事に着工しまして、本年5月末に完成することとなりました。

この新しい樹林型合葬式墓地のコンセプトでございますが、「自然に還りたい」というニーズとともに、「承継や管理への不安」、また「墓地需要への対応」等、社会情勢を踏まえた新しい墓地の形態を採用しました。限られた未利用地を使用しまして、今後20年間の墓地需要に対応していくため、効率的な共同埋葬方式としました。豊かな緑に囲まれた墓地を目標に、樹林型合葬式墓地とさせていただきます。

主な特徴でございますけれども、さいたま市で初めての公営の樹林型合葬式墓地でございます。埼玉県内では越生町に続き2番目となりますが、規模としては最大級のものとなります。

将来の承継者がいなくなるという不安を解消していくために、現在の市営

墓地の利用者が新しい樹林型合葬式墓地へ改葬できる制度を新たに創設しました。無縁化墓地の改葬整理を実施し、新たな制度の利用により、空いた区画を再募集することによって、墓地の循環利用を図ってまいります。

埋蔵数は、1万6,000体のうち1万6000体は一般募集用としております。また、残りの6,000体につきましては、市営墓地の利用者の返還、いわゆる「墓じまい」であるとか、長期管理料未納者、もしくは無縁化墓地の改葬整理に利用してまいります。

樹林型合葬式墓地の施設の概要でございますけれども、完成予定は令和元年5月末でございます。スケジュールは、一般募集につきましては5000体を9月ごろに一定期間募集する予定でございます。以降、毎年5000体を募集する予定としております。また、現在の市営墓地の利用者が返還に伴いまして、墓じまいとして利用する場合は、9月ごろから随時受付していく予定でございます。

所在地は、さいたま市見沼区大字大谷600番地、思い出の里市営霊園の敷地内でございます。立体墓地北側の未利用地を整備しました。告別式への参列者や墓参者への配慮を必要とする施設のために、見学会を開催する予定はございませんが、園内を散策しながら随時外観をご覧くださいことは可能でございます。

また、施設内容でございますが、施設面積は1,320平方メートル、遺骨の収容体数は、1基に400体用の角形マンホール式の納骨用カロートを40基整備して、全部で1万6,000体の収容が可能となります。共同参拝する方式として、豊かな緑に囲まれた墓地を目標に墓標とするシンボルツリーを3本、ヤマボウシ、コブシ、ハナミズキ、また外周部にはその他樹木を23本植樹して、献花台や焼香台を整備します。

樹木の選定に際しては、埼玉県の在来種、また郷土種を参考に、シンボルツリーは落ちついた白い花や紅葉を楽しめる樹木、また外周部では季節感のあるものを選定いたしました。

また、カロートの底面につきましては、碎石を敷き詰めまして、市民の「自然に還りたい」というニーズにも対応していくものでございます。今後も高齢化等によるさまざまなニーズの変化に対応してまいりたいと考えております。私の説明は以上でございます。

- 産経新聞 市長からの説明について、質問をお願いします。

### 議題 1 に関する質問

- 朝日新聞 朝日新聞です。

この合葬式墓地は、県内 2 番目という話なんですけれども、全国的に既に公営のものとしてはどのくらいあるのかということ、それから規模として、大ざっぱで結構なんですけれども、例えば最大でこれぐらいのものがあって、市のものは中規模程度とか、大規模の部類に入るとか、そのあたりの規模感を教えていただければと思います。

- 事務局 近隣の同様のお墓としましては、東京都の小平霊園が 1 万 7 0 0 体で、越生町が樹林葬として 1, 0 0 0 体と伺っております。

- 朝日新聞 全国でこの公営の合葬式墓地というのはどのくらいあるんでしょうか。

- 事務局 政令市などにおいて同様の樹林型を整備しているところが先ほどの東京都の小平霊園、新潟で樹木葬を整備しているものがございます。その他、共同の建物の中に納骨をする施設を持つものが札幌、仙台、千葉、相模原にあると伺っております。

- 朝日新聞 わかりました。ほかの細々したものは、後で聞きます。ありがとうございます。

### 幹事社質問：GW 10 連休の市への影響・市長の過ごし方について

- 産経新聞 それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしく願いいたします。

ゴールデンウィークは 10 連休となりましたが、さいたま市としてはどのような影響がありましたか。また、市長は連休中どのように過ごされましたでしょうか。

以上、お願いいたします。

- 市長 それでは、幹事社質問にお答えをしたいと思います。

まず、10 連休のさいたま市での影響についてでございます。まず、新しい元号がスタートしたということで、5 月 1 日、2 日の 2 日間にわたって記帳所を設置させていただきました。朝の 9 時から夕方 17 時までの間でございまして、本庁舎及び浦和区役所を除く 9 区役所の全 10 か所で記帳所を開設いたしました。2 日間という短期間にもかかわらず、1, 9 5 1 名の方

が記帳に訪れていただきました。多くの皆様の祝意がこもった記帳簿については、本日、宮内庁へお届けしたところでございます。

また、休日夜間の来庁者でございますが、10連休中に夜間・休日受付窓口に提出されました戸籍に関する届出の件数は1,189件でありました。5月1日に提出された婚姻届は562件でございました。桜区、浦和区、南区におきましては、急遽、写真撮影用にバックボードや新元号のボードを用意して、希望した方に撮影を行い、好評をいただきました。

また、新しく整備されました大宮区役所で、5月6日に10時から12時、また13時30分から15時30分の2部制で市民向けの内覧会を実施したところでございます。午前の部は約1,100名、また午後の部は約1,600名、合計で約2,700名の多くの方々にお越しいただきました。

また、区民有志の実行委員会において実施された完成祭にも多くの方が参加をされ、新庁舎への期待、また地元の方々の思いを感じたところでございます。

また、5月3日から5日にかけて、「第36回大盆栽まつり」をはじめとする盆栽関連イベントが開催されまして、5月3日に大宮盆栽美術館で行われた「大盆栽まつりの開会式」及び「市民盆栽展の表彰式」に出席をさせていただきました。「大盆栽まつり」は、当日も大変賑わっており、今年も3日間で約6万人の方々にご来場いただいたところでございます。昨年とほぼ同じぐらいの人出であったということでもあります。

そのほか、盆栽四季の家での「おもてなしイベント」、またあわせて大宮駅東口での「おおみや盆栽春まつり」など各所で盆栽関連イベントが開催されたほか、周辺観光施設を巡るスタンプラリーを実施するなど、5月の青空のもと、多くの方々に楽しんでいただけたものと考えております。特に来場者の中には外国人や若い方々の姿も見受けられまして、幅広い層の方々にご来場いただけたのではないかと感じております。

また、3月28日に開設した「まるまるひがしにほん」におきましては4月27日から5月2日にかけて「北海道フェア in まるまるひがしにほん」を開催して、後半の5月3日から5日にかけては、先ほどの「おおみや盆栽春まつり」として、平尾成志氏と三条市保内の職人によります盆栽の特別展示、また和装体験を行わせていただきました。ゴールデンウィーク中のこ

の「まるまるひがしにほん」の来場者数は約3万5,000人と、多くの方々に賑わうものとなりました。大型連休中、大きなトラブルもなく、また多くの方々に訪れていただく場を提供できたことを大変嬉しく思っております。

また、私の連休中についてでございますが、主な公務としては4月29日に市の「スポーツ協会総合開会式・表彰式」に出席をさせていただいたり、また5月3日には今お話を申し上げました「大盆栽まつりの開会式」、「市民盆栽展の表彰式」並びに市の緑の祭典、これは隣接する市民の森で開催されたイベントでございますが、「花と緑の祭典のオープニングセレモニー」にも出席させていただきました。

また、翌日の5月4日土曜日には「アグリフェスタオープニングセレモニー」、「おおみや盆栽春まつり」、「まるまるひがしにほん」に出席、視察などをさせていただいたところでございます。そのほかにも政務、また私的な用事なども行わせていただきました。

私的なものとしては、この間マラソンの練習を少しさせていただきました。息子と一緒に自宅から大宮の氷川参道を通って新都心ぐらまで、約17キロぐらいございましたけれども、それを息子と一緒に、途中でかなり差はつけられましたけれども、走らせていただきました。また、家族とゆっくり過ごす時間をつくろうということで、家内や家族と一緒に東京のほうにも行って、いろいろまちづくりを見ながら、楽しく過ごさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○ 産経新聞

ありがとうございました。

代表質問の質問に関して質問がある方は、マイクを使用して質問してください。よろしく申し上げます。

それでは、そのほかにも質問がある方は質問をお願いします。

**その他：大津市における園児の事故について**

○ 埼玉新聞

埼玉新聞でございます。

先ほど市長が冒頭におっしゃってございました大津の事故の件について伺いできればと思います。今回大津の保育園自体には本当に過失がないということで、安全対策に非常に気を使っていたらっしゃったということなんですけれども、この事故の改めましての受けとめと、さいたま市内には市立保育

園が61ございますが、何か園外活動について安全対策、改めて指導されたこと等ございましたら教えていただけますでしょうか。

○ 市長 それでは、ご質問にお答えしたいと思います。

まず、市立の保育園では、園内保育マニュアルを作成して対応しているところがございます。具体的には、各園で近隣の危険箇所を把握した上で散歩コースを設定してございます。また事故の翌日の5月9日付で、認可保育所、また市が認定した認可外保育施設に注意喚起の通知を発信させていただきました。

また、5月10日付で厚生労働省事務連絡として、「保育所等での保育における安全管理の徹底について」も各施設に通知をしたところがございます。通知の内容は、散歩コースや人員配置など、園外活動における安全な運営を点検していただきたいという内容でございます。国の通知も保育所保育指針に基づく同じような内容でございました。さらには、施設長、また園長が集まる会議等のさまざまな機会を捉えて注意喚起を行っていきたいと考えております。

また、市立の小中学校の児童生徒の交通安全対策としては、毎年度、全市立の小中学校で通学路の安全点検を保護者等と連携して実施しております。今年度は4月16日付で通学路の点検をするように通知をしておりますが、今回の事故を受けまして、より一層そういった点検についても精査をするように指示をしておりますし、また5月中をめどに報告が上がるということになってございます。いずれにしましても、幼児、また児童の安全確保のために、改めて関係部署に対して徹底した点検を指示していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 5月中に上がってくる報告というのはどういうこと。

○ 市長 毎年度、教育委員会から各学校に通知をさせていただいて、保護者と連携をしてそれぞれの通学路の安全点検をしていただいております。それが先ほど申し上げましたけれども、今年度は4月16日に、大津の事故の前に既に通知をしておりますが、今回の事故なども受けまして、改めてしっかりと点検をしていただくようにしていきたいと思っております。

## その他：待機児童について

○日本経済新聞

日経新聞と申します。

昨日、待機児童のレクを受けたんですけれども、ちょっとそれに関連してお伺いしたいのですけれども、待機児童数が昨年を上回ったということで、2年後までに待機児童ゼロを目指すということだったのですけれども、その計画というのは今後も続行するのかという点と、その計画は今後も続けるのか、見直すということは考えられていないのかというのと、それに関連して幼保の無償化も改正されましたので、さらに待機児童が増える可能性、懸念もあると思うんですけれども、そのあたりはどのようにお考えかお聞かせください。よろしく申し上げます。

○市 長

本市では、保育所等の利用を希望する方が毎年度増加しておりますので、積極的に施設整備、待機児童を大幅に上回る施設を整備し、定数を増やしてきたところでございますけれども、今回の状況は昨年を78人上回る393人という結果となったことについては、本当に残念であり、また併せて、さらに私たちとしては、しっかりと危機感を持って、この待機児童を減らしていく取組を強化していかなければいけないという思いを強くしたところでございます。

その中で、あと2年で待機児童ゼロを目指していこうと進めてきていますが、既に今年度の通常予算の中で、保育所の定員を合計1,268人分整備するというところで進めてきましたけれども、こういった状況を踏まえて、さらに増やしていけるように対応を検討していきたいと思っておりますし、できれば補正予算も含めて、早急にこの待機児童が減少できるような施策を打っていきたいと考えております。

○日本経済新聞

幼保の無償化を受けて、増える可能性があると思うのですけれども、そうしますと、これの今ある計画というものの達成が難しくなってしまうのではないかという危機感もあるかと思うんですけれども、そのあたりはどのように対応なさいますか。

○市 長

ご案内のとおり無償化の法案が通りまして、もちろん今年の10月からいろいろな影響が出てくるわけでありますが、特に来年は今年以上、場合によったら影響を受ける可能性もございますので、私たちとしては、まず認可保育所の整備を充実させることはもちろんであります、これまでも多様な保



育を選べるような環境づくりをしていこうということで、認可保育所に加えまして、市の認定保育施設でありますナーサリールームでありますとか、子育て支援型幼稚園を、新たに制度を創設して実施していたり、あるいは今年度から実施を予定しております保育ママといった制度など、市民の方々のさまざまな、多様なニーズに応えられるような保育の受け皿づくりをより一層進めていきたいと考えております。

また、建物を整備するというだけでなく、やはり保育の質ということも併せて重要なことだと思っておりますので、保育士の確保策についても、十分これらに対応できるような施策も取り組んでいきたいと考えておりますし、また、保育所の必要性についても、多くの皆さんにご理解いただきながら整備の数を増やしていけるように、努力をしていきたいと思っております。

○ 読売新聞 読売新聞です。

先ほどの件に関連してなんですけれども、15日時点で11の政令市が待機児童数を公表していると思っておりますが、その中でさいたま市の待機児童の数がかなり多い状況にあったと。それについて、市長はどのように思っていますか。

○ 市長 他の都市と比べて非常に数が多く、図抜けて多いという状況がございます。私たちとしては、今回の状況を十分に認識をして、これまで増やそうと思っていた計画なども、見直す必要があると思っておりますし、総合的にどのような形で対応していくことが、早期にこの待機児童を減らせるのかということについて、もう一度しっかりと見直しをして取り組んでいく必要があると考えております。

私自身も、当選をした平成21年以来、特に待機児童の問題については待機児童ゼロを目指すということで、かなり重点的に取り組んできました。施設数では当時より3倍増やして、当時120施設でしたけど、既に今374施設整備させていただいたり、定員も2倍以上、1万人ちょっとだったのが、今2万2,000人を超える定員になっています。でも、これでもまだ、ライフスタイルの変化でありますとか、市民ニーズが変化をしている状況がございますので、こういったことも十分に踏まえながら、私たちとしてはさらに対策を強化、充実を図っていきたいと思っております。

## その他：幼保無償化について

### ○ 朝日新聞

朝日新聞です。

幼保無償化について市長の率直な意見をお聞きしたいのですが、幼保無償化につきましては、富裕層も含めて完全無償化という形をとり、なおかつ自治体の負担も増えているということなどを鑑みると、そもそも保育園というのは、所得による負担軽減という策などが既に実施されているところを無償化するというのは、逆進的、結局金持ちに優しい施策であり、地方に負担を生じさせるという、大変国政としては非常にひどい施策という意見もあるんですけど、その点について清水市長の意見を聞かせてください。

### ○ 市長

基本的には、就学前の子どもたちの保育であるとか幼児教育というのは、非常に重要だと思っていますので、そういう意味で、保育所あるいは幼稚園が無償化をしていくということは、基本的な方向性としては重要なことであると認識しております。

ただ、やはり制度の中では、認可保育所が少し環境的には有利な状況というか、より無償化が一番実現をしている状況になっておりますので、さらにそちらに（入所希望者が）シフトしてしまうのではないかという危惧をしているところであります。私たちとしては、保育が必要なご家庭、そしてまた幼稚園という場で幼児教育を充実させたいという家庭、さまざまなご家庭の子育ての方針であったり、家庭環境であったり、それぞれ違いがありますので、その違いに沿ってしっかりサポートできる、公平にサポートできる体制がとれることが最も望ましいと思っております。そのためには、国においても、また地方自治体においても、負担が多くなるということも事実であります。

その中で、私たちとしてはより選択できる保育、幼児教育の環境づくりをしっかりと進めていきたいと考えておりますが、どうしても今、認可保育所のほうにややニーズが増えてきている、偏ってきているという状況があることも、また事実だと思っておりますので、その部分での制度の是正であるとか見直しは、今後必要になってくるのかもしれないと思っております。

## その他：改元に伴う行政文書の表記について

### ○ 朝日新聞

もう一つ質問させてください。

5月から、報道発表資料も令和元年というような表記が始まりましたけれ

ども、やはり行政の継続性とか、経年変化を見るという上で、大変令和と平成と、この換算するのが一旦算数をしなきゃいけない。ましてや、行政上こうしたミスが許されない場において、1年とか2年の狂いも大変なことだと思うのですが、例えばさいたま市の誕生が平成13年とか言われて、じゃ今年で何年だと言われたときに、令和だと数え方が非常に難しいと思うのです。それが2001年からというふうに考えれば、今年は2019年ということで大変わかりやすいと思うのですが、そういう意味で、行政文書について西暦を併記するとか、そういうようなシステム上の変更などを考えるお考えはないでしょうか。

- 事務局      今ご指摘のありました和暦と西暦の記載の仕方なんですけれども、これにつきましては、いわゆる元号の改元前から、基本的には元号を使用いたしますけれども、その辺につきましては西暦との併用ですとか、あるいは西暦で記載することも特にやぶさかでないという形で、所管の考え方で記載をさせていただいております。

この考え方につきましては、元号が改元しましても、同じような考え方でさせていただく予定でございます。

- 市長      特に経年でグラフ等の数値を見る上では、やはり併記をしていくことがわかりやすさにつながるとお思いますので、そういう意味では、そういったよりわかりやすい環境はつくっていききたい。ただ、システム上ということになると、これはまたちょっと別の話になると思うのですが、表現上はいろいろな工夫をして、わかりやすくつくっていききたいとお思います。

- 朝日新聞      そういうことを言いますと、我々記者発表資料などは、西暦と併記で表現していただくほうが、我々としては大変ありがたいと。うちの報道機関だけかもしれませんが、ちょっとそういうふうな思いがありますので、ご検討いただければと思います。

- 市長      今後検討させていただきたいとお思います。

### その他：待機児童について（再質問）

- 埼玉新聞      埼玉新聞でございます。

先ほどの待機児童の話に戻ってしまうのですが、ちょっと住みたい街ランキング等の関連なんですけれども、かつて住みたい街ランキングで非常に上位になったまちが、混雑がひどいということで、実際に住んでみると

非常に住みづらいまちだったということで、今年すぐくランキングを下げたということがあるのですけれども、今年さいたまでいうと、大宮が4位、浦和は8位というすばらしいアンケート結果だったので、改めまして保育環境を含めたまちづくりにつきましての市長の決意をお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市 長 おかげさまで、住みたい街ランキングの中で今回、昨年も大宮、浦和が9位、10位ということで、ベストテンの中に2つのエリアが入るということは、ベストテンの中に入っている市町村の中で唯一でありましたけど、これが今年、大宮が9位から4位、浦和が10位から8位ということで、さらにランクアップさせていただきました。

その要因の一つは、住みやすいということとやっぱりリンクしていると。その中では、特にさいたま市の場合は、若い世代がやはりたくさん住んで、さいたま市に転居して住んでいただいていると。昨年のゼロ歳から14歳までの転入超過数では、全国で第1位という数字でもございました。そういう意味では、(子育て) しやすいまちというイメージを持っていただいているからだろうと思います。

そうした中で、待機児童が非常に多いということは、大きなマイナス面であると思っておりますし、子育て世代に対して、私たちは子育てが楽しいさいたま市をつくろうということで、やはり就学前の子どもたち、そしてそのご家庭のサポート、親と子のきずなを深めていく子育て支援を充実させながらという方針と、また就学後は教育ということで、学力であるとか、体力であるとか、あるいはコミュニケーション力、あるいは道徳というような視点からも、しっかりとしたバランスのとれた子どもたちを育成していこうということで充実を図っているところであります。特に今回は待機児童(が多く)、子育て支援をしていく中で、やはり住みやすいというには、大きな課題の一つになったところでございますので、そこについては十分これからも留意をして、その対策に努めていきたいと思っております。

○ 産経新聞 各社質問いかがでしょうか。

それでは、質問も終わりましたようですので、どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
- なお、次回の開催は、5月30日木曜日、13時からを予定しております。
- 本日はありがとうございました。

午後2時09分閉会